

2019年（平成31年・令和元年）の世界の年平均気温 （速報）

2019年の世界の年平均気温偏差（1981～2010年の30年平均値からの偏差）は $+0.42^{\circ}\text{C}$ （1～11月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した1891年以降で、2番目に高い値となる見込みです。また、最近5年（2015～2019年）は、すべて歴代5位以内となる見込みです（第1位は2016年の $+0.45^{\circ}\text{C}$ ）。世界の年平均気温は、長期的には100年あたり 0.74°C の割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています（図1）。

2019年の地域別の気温では、ヨーロッパや東アジア、オーストラリアなどで高温となったほか、海域では北太平洋やインド洋を中心に広い範囲で高温となりました（図2）。また、2019年の月別では1～11月は歴代4位以内、季節別でも全ての季節で歴代3位以内となりました。

近年、高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が考えられます。また、エルニーニョ現象やラニーニャ現象などの数年程度から数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動の影響も受けて変動していると考えられます。2019年が歴代2位の高温となった要因としては、地球温暖化の影響と2018年秋から2019年春まで続いたエルニーニョ現象等の自然変動の影響が考えられます。

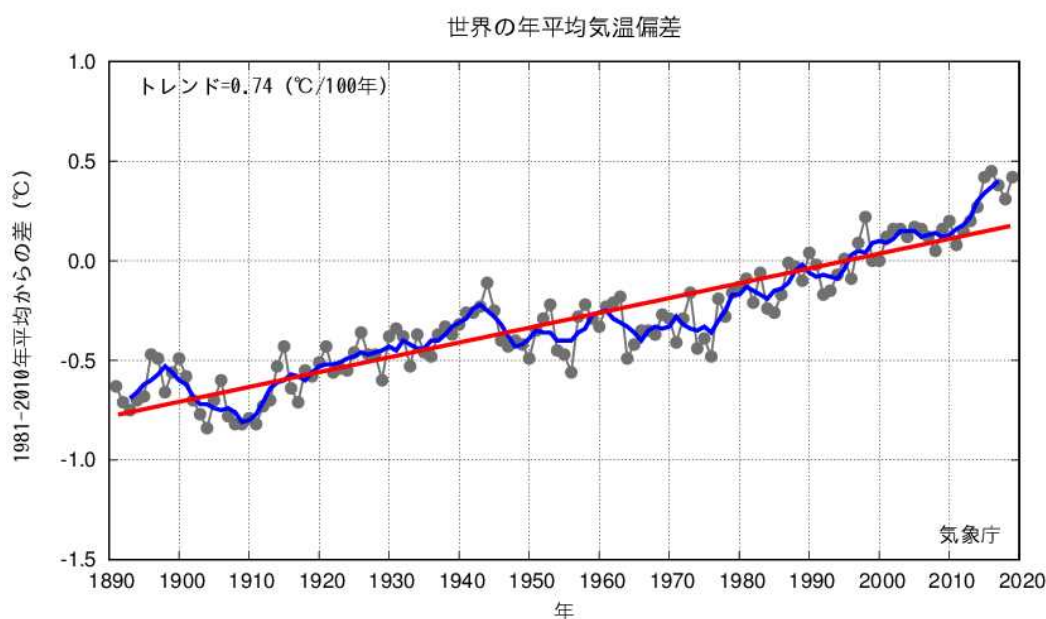
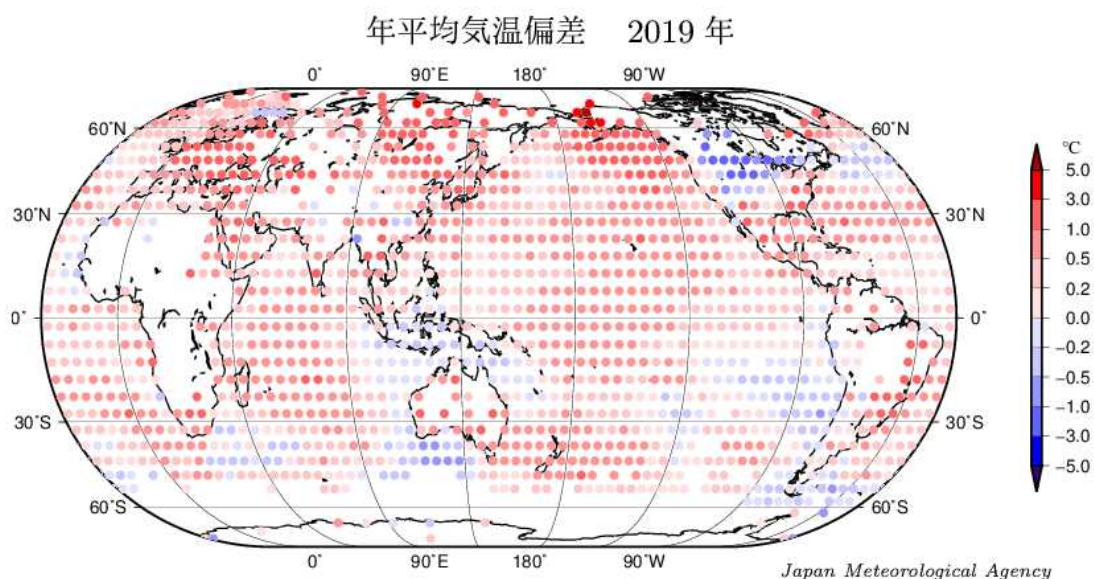


図1 世界の年平均気温偏差の経年変化（1891～2019年、速報）

黒線は各年の基準値からの偏差、青線は偏差の5年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。基準値は1981～2010年の30年平均値。



図中の丸印は、5°×5° 格子で平均した 1981-2010 年からの偏差を示す。

図 2 2019 年の年平均気温偏差の分布図（速報）

各観測点の 2019 年の年平均気温偏差（速報値）を緯度、経度 5 度の領域ごとに平均した値で示す。

参考：世界の年平均気温の順位（上位 10 位まで、速報）

世界		
順位	年	気温偏差 (°C)
1	2016	+0.45
2	2019	+0.42 *
	2015	+0.42
4	2017	+0.38
5	2018	+0.31
6	2014	+0.27
7	1998	+0.22
8	2013	+0.20
	2010	+0.20
10	2005	+0.17

本資料は、2019 年 1～11 月までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。世界の年平均気温の確定値は、2020 年 2 月初めにホームページ（下記 URL）で発表します。また、同ページにて年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温を随時更新・掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>

